

中長期目標 (学校ビジョン)		自立と社会参加をめざし、より豊かに生きる力を育む学校			今年度の 重点目標	1 学習指導・授業改善に努める【授業実践の充実】 2 保護者や地域の期待と願いに応える【自立と社会参加】 3 児童生徒の健康と安全を守る【QOLの向上】 4 センターの機能を推進する【チーム鳥養の推進】	
年		度		当	初	( )月	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	到達状況	評価	改善策
1 学習指導・授業改善に努める【授業実践の充実】	小学部	○自分らしさを発揮し、意欲的に学ぶ授業づくり	○各クラスが、児童の興味関心や発達段階を考慮した授業づくりに取り組んでいるが、クラスごとの取り組みでとどまっている。他のクラスの指導に関して、情報交換する機会が少ない。	○実践した授業を複数の教職員で評価し、子どもたちが意欲的に学ぶ授業改善が行われている。	○子どもを語る会の中で授業づくりについての意見交換を年10回実施する。 ○実践した授業の写真やビデオを複数の教職員で見合い、授業改善に関する話し合いを年5回実施する。 ○教職員アンケートをとり、目標達成度を評価する。		
	中学部	○一人一人の課題や教育的ニーズに応じた授業づくり	○わかりやすい授業づくりに取り組んでいるが、教科によって難しさもある。(単一) ○授業づくりにおいて専門性がいかされていない。(重複)	○わかりやすい授業づくりがなされ、生徒が意欲的に学習に取り組んでいる。(単一) ○単元ごとに学習の振り返りができ、授業改善が行われている。(重複)	○単一会で学習についての工夫について話し合う機会を年3回持つ。(単一障がい学級) ○各教科等のチームを中心に学習の特性を生かした授業づくりの会を持つ。(重複障がい学級) ○教職員にアンケートをとり、目標達成度を評価する。		
	高等部	○様々な人との関わりの中で表出・表現力と課題解決力を高める授業づくり	○それぞれの担当が一人一人の実態や障がいの特性に合った授業実践に取り組んではいるが、全体の共通理解としては不十分である。	○各コース・グループ等で関わる生徒に対しての共通理解のもと、授業改善が行われている。	○普段から教員同士の話しやすい雰囲気づくりを心がけたり、単一・生活ふれあいの会や子どもを語る会等を利用して、グループごとに生徒や授業について話し合える場を設ける。		
	教務部	○新学習指導要領への移行に向けた年間指導計画の整備	○新学習指導要領に示されている各教科等の内容や見方、考え方についての共通理解が必要 ○年間指導計画は現行の教科等の内容で作成している。	○年間指導計画や個別の指導計画に新学習指導要領の内容が明示・反映されている。	○年3回開催予定の教科・領域の会等で、新学習指導要領の新しい見方・考え方についての共通理解をはかる。年間指導計画作成時及び点検時などに、グループごとに新学習指導要領の内容と照らし合わせ修正する。		
	研究研修部	○自立に向けた教育的ニーズに応える授業づくり	○発達段階に応じた目標設定や具体的な目標設定をすることの大切さが理解されてきている。 ○評価の基準の設定や評価方法について、曖昧な部分が見られる。	○一人一授業の実践の中で、個々の教育的ニーズを踏まえた目標設定による授業と、目標に準拠した評価を行っている。(目標値80%以上)	○「とりようの『まなび』」を用いて整理した教育的ニーズに基づいて目標設定を行うとともに、評価基準を設けて評価を行う。		
	情報教育部	○ICTを活用した授業実践の推進と充実	○ICTの活用、授業実践は増えてきているが、児童生徒の変容がわかるまで長期に取り組んだ実践の報告が少ない。 ○情報モラルの指導力向上に取り組む必要がある。	○授業及び活動の中でICTを効果的に活用している。 ○児童生徒の実態に応じた情報モラルについて適切に指導が行われている。(目標値80%以上)	○教職員が児童生徒の実態に応じたICT活用が行えるように、関係機関等と連携した研修会を行う。 ○学習保障事業(オリヒメ)を推進する。		
2 保護者や地域の期待と願いに応える【自立と社会参加】	小学部	○保護者や関係機関と連携した指導支援の充実	○外部機関の助言や児童の支援に関する保護者からの情報を日々の指導にいかしているが、助言された内容を活用できなかったり、情報が整理されていないため聞き取った情報を支援に反映していかれたりすることがある。	○外部機関の助言や児童の支援に関する保護者からの情報を日々の指導にいかしている。	○外部機関の助言や保護者からの情報を教育支援計画のシートに記録する。 ○教職員にアンケートをとり、目標達成度を評価する。		
	中学部	○自己実現に向けた指導・支援を行うための連携の在り方	○施設利用体験説明会で、キャリア教育部の協力を得て保護者同士が情報交換できる場を設け、保護者の思いや願いを聞き取り、施設利用体験の目的などを見直した。 ○個々のニーズに合った、職場体験、実習を計画しているが、現在および卒業後の生活の場が限られている。	○個々のニーズを把握して最新の情報が収集できるよう校内の人材を活用し、年2回学部会などで情報交換ができています。 ○保護者それぞれが持つ情報を相互に交換できるように、関係機関利用期間(仮)の前に情報交換会を開催している。	○単一障がい学級では、進路情報を知り、自己の適性を把握して、自ら進路を選択する力を身につける支援を総合的な学習、学活、自立活動の中に明確に位置づける。 ○教職員にアンケートをとり、目標達成度を評価する。		
	高等部	○確かな進路実現に向けての支援体制づくり	○高等部卒業後の進路として生活介護から一般就労、進学等多様であり、それぞれの進路に応じた支援が必要である。	○それぞれの進路に応じた支援が適切に行われている。	○本人や保護者の進路に関する希望を元に、具体的な計画やスケジュールを立てて進路担当教員とも連携しながら実現に向けての支援を進めていく。		
	文化部	○一人一人の学びや力が発揮できるとりようわくわくフェスタの充実	○発表会のねらいや意義が少しずつ浸透してきている。 ○午後からの参加率が低い。 ○担当者に負担がかかっている。	○一人一人の学習の積み重ねや良さが引き出され、充実した発表会であったと7割以上の人が感じている。	○一人一人の良さが引き出されるような発表内容やグループの検討。 ○担当者の役割を明確にし、仕事を分散するとともに、各学部で連携が取れるようにする。 ○保護者、教職員にアンケートを実施し、取り組みの評価を行う。		
	自立活動部	○児童生徒の実態に応じた、自立活動の適切な目標設定と指導内容の充実	○お役立ち勉強会(自主勉強会)や自立活動情報誌「MANABI」等で、自立活動の指導に関する情報を定期的に提供している。 ○昨年度2回、今年度1回、自立活動の目標設定の手続きについての勉強会を実施した。しかし、目標設定時に十分活用されているとはまだ言えない。	○児童生徒の実態を的確に捉え、適切な目標設定ができるための勉強会をしている。 ○日々の授業実践に役立つ情報を提供している。	○自立活動の目標設定や指導内容の充実に関する勉強会を年2回以上実施する。 ○とりよう夏季セミナー、自立活動研修会、お役立ち勉強会等を通じて、実践に役立つ情報を年7回提供する。		
	キャリア教育部	○収集した情報の発信	○「学校の一日」に事業所情報を提供し、必要な情報を閲覧できるようにしている。また、新たに収集した事業所等の情報を更新して冊子にまとめ、各学部や自立活動室入り口に設置して誰でも見られるようにしている。 ○人権教育や進路に関する情報提供をしているが十分ではない。	○「学校の一日」で事業所情報が最新の情報に更新されている。 ○人権教育とキャリア教育に関する情報が、必要な時に閲覧できるようになっている。	○事業所に関する情報と人権教育・キャリア教育の取り組みについての情報を更新する。 ○情報更新したことを周知する。		

A:十分達成(90%以上または目標値以上) B:おおむね達成(70~90%未満または目標値の70~90%未満) C:できつつある(40~70%未満または目標値の40~70%未満) D:変化の兆し(20%~40%未満または目標値の20%~40%未満) E:まだ不十分(20%未満または目標値の20%未満)

年		度		当		初		( )月		
評価項目		評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	到達状況	評価	改善策		
3 児童生徒の健康と安全を守る【QOLの向上】	小学部	○体調に配慮した教室環境づくり	○体調を崩しやすい児童が多いので家庭との連携し、障がいに応じた環境調整を行っている。効率よく指導できるよう教室内の配置を工夫したり、児童の成長や変化に応じた机椅子等の調整したりすることが、十分ではない。	○効率よく指導できるよう工夫した教室内の配置が行われている。 ○児童の成長や変化に応じて、机椅子等の高さ等、きめ細かな調整を行っている。	○他の教室の様子を見あい、教室環境の改善に向けたアイデアを出す機会を年2回設定する。 ○児童の成長や変化に応じた机椅子等の調整ができていないか、年3回確認する機会を設定する。					
	中学部	○生徒が安心感の中でより主体的に活動できる教室環境の整備	○健康観察のポイントについて学協会などで共通理解を図ったが、回数が少なく、季節ごとの留意事項を伝えることができなかった。 ○グループで話し合う場所（教室）をローテーションにしたことで、教室環境を見合う機会となり、他の教室を参考にして安全な教室環境に努めるようになってきている。	○季節ごとの健康のポイントを共通理解し、気づきについて報告し合うことができていない。 ○環境の工夫について1クラス1事例環境の工夫を報告しあうことができていない。	○年3回健康のポイントについての共通理解を図る。そのうち養護教諭から学ぶ機会を1回持つ。 ○グループで話しあう場所をローテーションし、教室環境を見合う機会を設ける。					
	高等部	○生徒が安心して学べる教育環境づくり	○年度や季節の変わり目に体調が崩れがちになったり、ストレスや不安感が増したりする傾向がある。	○日頃の生徒の様子を丁寧に観察したり情報交換をしたりすることで、早めに対応することができている。	○生徒の心身の状況を日々の健康観察等で把握し、担当間で相談したり養護教諭に相談したりして心身の健康が良好に維持できるようにする。 ○基本的な生活習慣を身に付けるための指導を日々積み重ねていく。					
	保健安全部	○児童生徒が安全で快適に学校生活を送ることができる体制づくり	○各種訓練、研修等を通して、教職員の安全意識の高揚、医療や障がいに関する知識の向上を図っている。 ○病院新築工事に伴い緊急時の病院へのアクセスの不便さが予想されるため、緊急時の対応について関係機関と連携し体制を整える必要がある。	○教職員が緊急時をイメージし、対応について検討・共有し、いざという時に備えている。（目標値75%以上）	○各種訓練等の実施後の反省を受け、想定される事象をまとめ職員に発信していく。 ○教職員にアンケートをとり、目標達成度を評価する。 ○防災委員会、医療的ケア検討委員会等と連携し、病院新築工事に伴う環境の変化に対応した避難体制、緊急対応の見直しを行う。					
4 センターの機能を推進する【チーム鳥養の推進】	支援部	○地域におけるセンター的機能の充実	○外部からの障がいの状態に応じたさまざまな支援や就学に関する相談に対して、校内の職員の専門性を活用し、できるだけチームで対応するようにしている。 ○相談支援の状況や特別支援教育研修会、交流及び共同学習等、本校が取り組んでいるセンター的機能について職員への連絡白板や電子掲示板を通して報告し、周知・理解を進めている。	○エキスパート教員や学部主事等と連携しながら、適切な支援方法の提供や就学相談を行っている。 ○校内の教職員が本校が取り組んでいるセンター的機能について理解している。	○エキスパート教員等を中心として地域へのセンター的機能が果たせるよう、相談活動に出た際の補欠等校内の協力体制を仰ぐ。 ○掲示板や職員会等で本校が行っているセンター的機能の取り組みについて報告する機会を設ける。					
	キャリア教育部	○学校説明会等で本校のキャリア教育の取り組みについて情報発信	○学校説明会、体験入学等の機会をとらえて本校のキャリア教育の取り組みについて情報が提供されている。	○学校説明会、体験入学等で本校のキャリア教育の取り組みについて情報提供をして、本校への理解が深まっている。	○本校のキャリア教育の取り組みについて参加者に理解してもらえるような資料を工夫する。 ○東部地区就労促進セミナーで本校教育の取り組みについて発信する。					

A:十分達成（90%以上または目標値以上） B:おおむね達成（70～90%未満または目標値の70～90%未満） C:できつつある（40～70%未満または目標値の40～70%未満） D:変化の兆し（20%～40%未満または目標値の20%～40%未満） E:まだ不十分（20%未満または目標値の20%未満）